



光明の学び

中学部 1年生宿泊防災訓練が終了しました

今月の5日（金）・6日（土）、学園としては2回目となる**宿泊防災訓練**が実施されました。

今年は、初めて中学部1年生を対象として実施しました。

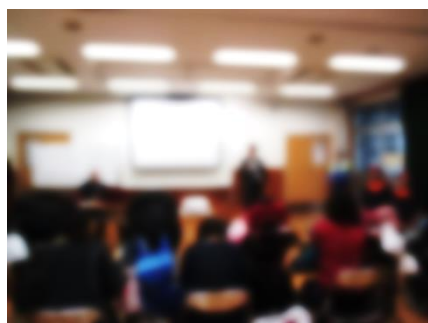
2日間にわたり、中学部1年生は東京都の宿泊防災訓練実施指定要綱に基づき様々な項目を訓練、学習しました。訓練の様子を以下に写真を交えて報告します。

5 日

① 防災学習（第1部）（16:00～17:00）

渡邊世子先生より、保護者の方に続いて生徒と中学部1学年担任に講演をしていただきました。

震災時の不安を解消するため、紙切りの実演などのリラクゼーションも教えていただきました。



校長先生からの防災訓練の心構えを聞く（左）北沢警察署の方も講演会に参加（中）渡邊先生の講演の様子（右）



渡邊先生は、生徒たちの前で紙切りを披露。アニメキャラクターの作品を受け取った生徒は大喜びでした。

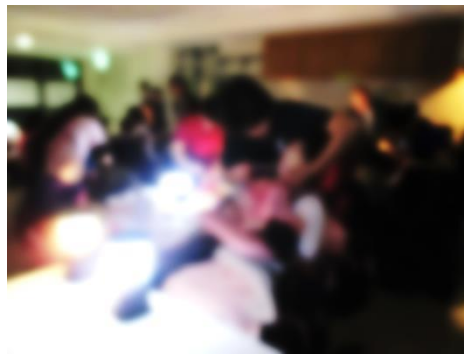
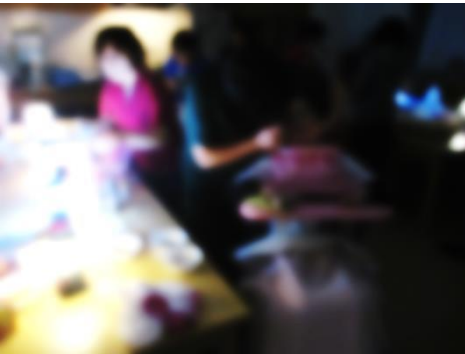
② 移動訓練（17:05～17:15）

17:05、学校を大地震が襲った想定で、寄宿舍への移動訓練を開始。生徒は防災頭巾をかぶり、雨の中、警察の方の先導で、整然と移動訓練を実施しました。寄宿舍入口に集合後、警察の方から訓練の講評をいただきました。



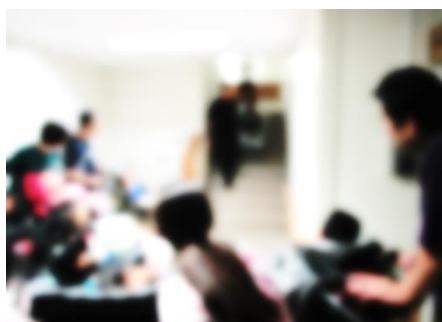
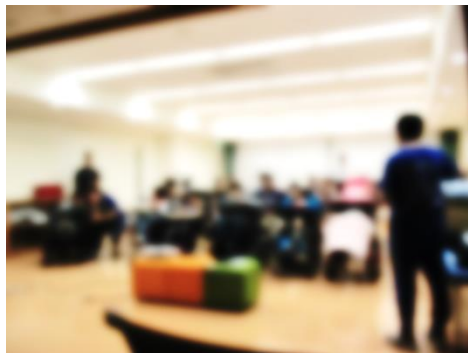
③ 喫食訓練 (18:00~19:00)

寄宿舎の食堂で喫食訓練です。学校が停電した状況を想定して、カンテラの明かりの下で静かに備蓄食糧を食べました。



④ 防災学習 (第2部) (19:45~20:45)

・寄宿舎プレイルームで防災学習をしました。
・DVD「生きる 首都直下マグニチュード7.3」で、地震後の東京がどんな事態になるか、その時の中学生の役割は？などとても考えさせられる内容でした。



・DVD上映後、地域の防災専門家早川氏による講演会がありました。防災についての知識を問うクイズ形式の講演会でした。
・世界中で起こる地震の **10分の1** が、狭い日本の国土で発生しています。日本の陸地は世界の **250分の1** です。
・避難用具を使った実践訓練も行われました。災害時、エレベーターが使用できない際、車いすの生徒にネックになるのが、階段の昇降、早川氏は、階段をそのまま下りても頭部や頸部への衝撃が少ないマットレスを準備し、体験訓練を見せてくれました。

⑤ 就寝準備設営訓練～就寝 (20:45～21:00)

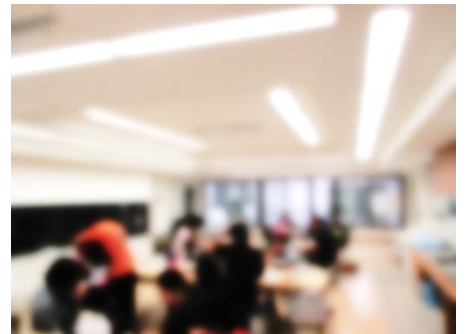


・長い一日もようやく終わり、就寝準備設営訓練の時間となりました。写真は男子部屋の様子です。都から一人2枚ずつ毛布が支給されました。
・体を清拭後、着替えをして、和室で生徒は就寝しました。21:30には消灯となりました。

6日

⑥ 喫食訓練 (7:00～7:45)

2日目の朝、生徒は6時に起床しました。7時から是非常食2回目の喫食訓練を行いました。



⑦ 保護者引渡し訓練 (8:25～8:30)

2日間、防災についてたくさんのことを学びました。校長先生の最後のまとめの講話を聞き、保護者の方に引き渡し、訓練が終了しました。



学園生を代表して、2日間宿泊防災訓練に参加した中学部1年生の生徒たちは、災害の怖さを知り、災害時に自分たちがどのように対処すべきかを教職員と一緒に学びました。御家庭でも日頃から災害について話題にし、防災についての心構えをお願いします。

保健食育部より 喫食訓練では生徒の実態に合わせて、都の備蓄食料のうち一部の食べにくい食品の代わりに、学校予算で食べやすい食品を購入しました。一人一人に合う食料を準備することはなかなか難しいものです。近日中に、保健食育部からは、自助バッグ＝「その子のための3日分の食料備蓄」のご案内を配布いたします。11月6日(火)に開催されるS・B両部門の保護者の方向けの試食会でも、防災備蓄の基本や市販の食品についての情報提供をいたしますのでぜひご参加ください。

PTAの防災学習会が盛況のうちに終了しました

(5日・金 12:30~14:00) (S棟)

宿泊防災訓練に先立ち、5日(金)の**12:30~14:00** 福島県立郡山養護学校長在任中に避難所運営に当たられた**渡邊世子先生**を講師とし、**防災学習会**を実施しました。

渡邊先生は、この学習会のために、福島県田村市の御自宅を当日早朝に出発され、本学園に御来校いただきました。

学習会では、30名以上の保護者の方と教職員が参加して、先生の貴重なお話を拝聴しました。

学習会の後、保護者の方に御記入いただいたアンケートにはこの学習会がとても有意義であった旨の御回答をいただきました。先生のお話から、保護者の方はもちろんのこと、教職員も防災に関する多くの示唆をいただきました。



東日本大震災時、宮城県気仙沼市の道路に書かれた「SOS・食(糧)水 50人分」の文字(左)、渡邊先生の講演の様子(中)、避難所となった郡山養護学校の様子(医療的ケアを受けるお子さんの姿も)(右)



渡邊先生が、避難所に集まった子供たちと一緒に始めたものが、紙切り細工です。現在もボランティアとして、子供たちへ積極的に関わられています。(左)講演会終了後、PTA会長からの謝辞と挨拶の様子です。(右)

渡邊先生の言葉 ①災害時のために各御家庭で1週間分の食糧・水分を準備しておくべき。
②原子力発電所の事故の際、安易に生水等を飲んではいけない。(放射性物質混入の可能性有)
③福祉避難所の必要性を感じている。普段から関係ある業者や人的ネットを作っておくべき。
④教職員は当初は4交代制、後に通常、早番、遅番の三交代制に。徐々に避難者による自治的な組織づくりを支援していった。避難者におかゆなどを提供できたのは特別支援学校ならでは。

講演会に参加された保護者の方の感想の一部(抜粋)です。

(内容について)

- ・とてもよかったです。自分達でできる事をすぐにでも準備していきます。
- ・原発事故の後、雨にまですぐ配慮できるのはすごいです。先へ先へと予想していく力をつけていきたいと思います。
- ・渡邊先生のお話、大変な中にも信じられないくらいの工夫。非常時でも前向きにできるのか?自分に問う良い機会になりました。
- ・手さぐりの中で校長先生の工夫と機転と判断で乗り越えた情景が思い浮かびました。